

# 報告 REPORT

## 令和4年度 北海道保険医会との懇談会

常任理事・医療政策部長 あらき ひろのぶ  
荒木 啓伸

令和5年2月27日（月）、標記懇談会を感染症対策に十分留意しながら開催した。本懇談会は平成25年から毎年開催しており、喫緊の諸課題等について意見交換や情報交換などを行っている。

はじめに加藤道保険医会長と松家会長から挨拶があり、次のとおり話題提供を行った。



### テーマⅠ「北海道医療計画における二次医療圏の区域設定について」

北海道医師会 医療政策部 部長 荒木 啓伸

昭和60年（1985年）に医療法が改正され、医療計画制度が導入された。この制度によって二次医療圏ごとに病床数を設定することとなり、各都道府県で一次医療圏・二次医療圏・三次医療圏を設定した。二次医療圏は一般の入院に係る医療を提供することが相当である単位とされ、令和2年4月現在、全国に335医療圏ある。北海道は国に先駆け、地域の医療需要に対応して包括的な医療を提供していくための区域として昭和55年に医療圏を設定した。平成24年（2012年）および平成29年（2017年）にはトリプル20（人口規模20万人未満・流入入院患者割合20%未満・流出入院患者割合20%以上）に該当する二次医療圏は面積や基幹となる病院までのアクセス時間等も考慮した上で見直しについて検討するよう国が方針を示したが、北海道は広域分散型であり、医療機関へのアクセス面で患者や家族などに負担がかかる等の理由により、今まで変更等を行わず現在に至っている。

北海道では第8次医療計画の策定にあたり、国から二次医療圏見直しの方針が示される前から二次医療圏設定の方向性についてトリプル20をベースに議論を行っている。道内21の二次医療圏のうち、トリプル20に該当するのは11医療圏となっており、機械的に整理すると10医療圏まで減ることになる。北海道では二次医療圏を単位として設定している施策等が多く、二次医療圏の見直しによって基準病床数や保健所の設置、数値目標の改善など影響が出るものもあるが、5疾病5事業および在宅医療については既存の二次医療圏に関わらず、柔軟な設定も可能であることから、二次医療圏の見直しについては慎重に検討する必要がある。

### テーマⅡ「医療のIT化について」

北海道保険医会 政策部 部長 伊藤 正美

骨太方針2022において、保険医療機関や薬局は令和5年度からオンライン資格確認を原則義務化する方針が示されたが、インターネット回線が繋がらないと使用できないなど様々な問題がある。令和4年8月3日の中医協総会の資料ではレセプト請求の実施状況が示され、病院と調剤薬局の97%以上はオンライン請求で対応していたが、医科診療所は72.8%、歯科診療所は24.6%となっており、特に歯科診療所はオンライン環境が整っていないことが分かった。

令和4年9月、国からオンライン資格確認義務化等の方針が示される前に当会会員を対象に「オンライン資格確認に関するアンケート」を行った。回答者の約80%は健康保険証の廃止やオンライン資格確認の義務化に反対しており、「原則義務化までの日程が短すぎる」、「セキュリティ面に不安がある」などの意見があった。道外の保険医会でも同様のアンケートを実施し、システムを導入しない・できないと回答した医療機関が15%あり、回答した割合は60代以上が多く、義務化を強制すると廃院する医療機関が出てくるのではないかと思われる。また、既に運用を開始している医療機関からは「利用する患者がほとんどいない」、「被保険者情報が迅速に反映されない」などの意見も多数出ていた。

同年10月、オンライン資格確認の義務化が明確になり、オンライン資格確認に関するアンケートを改めて実施した。回答した会員からは「オンライン資格確認の義務化を進めるのは拙速・進めるべきではない」、「セキュリティや費用負担が心配」などマイナスの意見が多かった。オンライン資格確認の義務化にあたって国は経過措置を設けたが、厚生局への届け出は原則、オンラインで行うことになっており、インターネットの環境が整っていない地域はどのように届け出すればよいのか疑問に感じる。

将来的に電子カルテが完全実施になった場合を想定し、同年11月末に電子カルテに関するアンケートも実施した。業務効率化のため既に導入している医療機関が多く、便利であると回答していたが、維持費や更新時の費用、セキュリティについて不安視している医療機関も多かった。ただ、歯科に関しては従前からワープロカルテが主流なため、電子カルテはオプションであることが多く、導入を進める場合は、このことを念頭に置いて進めなければならない。



両会からの話題提供後、「オンライン資格確認」や「電子カルテ等の情報共有」、「3文書6情報」、「二次医療圏の見直し」などについて意見交換を行い、懇談会を終えた。

